

山陽小野田市青年の家 施設の概要

教育委員会事務局社会教育課

施設名	開設年月	面積	開設当初 運営母体	市又は町に 移管した時期	備考
青年の家 (研修棟)	昭和 51 年 10 月	1,047 m ²	山陽町	—	山陽パークの跡地に開設 H18.4～休館（事務所機能は残っ ている。）
体育館	昭和 52 年 4 月	1,239 m ²	スポーツ協会	H24.4	(アリーナ) 720 m ²
運動広場	昭和 51 年 6 月	16,000 m ²	スポーツ協会	H24.4	
テニスコート	昭和 52 年 7 月	3,000 m ²	スポーツ協会	H24.4	
天文館	昭和 41 年 4 月	512 m ²	山陽振興	S51	
プール	昭和 40 年 8 月	2,443 m ²	山陽振興	S51	H15 年度～ 休止

昭和 40 年 8 月 山陽パーク開園（遊園地、プール、天文館）
 昭和 51 年～昭和 52 年 運動広場、体育館、テニスコート完成
 昭和 51 年 10 月 青年の家完成（研修棟）
 平成 18 年 4 月 青年の家（研修棟）休館

□ 青年の家（研修棟）

青年の家は、心身ともに健全な青少年の育成と社会教育団体の育成を目的に昭和 51 年 10 月に開設。宿泊研修施設として、県内外から幅広い利用者があったが、合併の翌年度平成 18 年 4 月から施設の老朽化を理由に休館している。

□ 運動広場、体育館、テニスコート

昭和 48 年の山陽町の基本構想に基づき、また当時の町民からの強い要望があり、日動振の補助を得て、昭和 51 年から翌年にかけて開設。山陽スポーツ協会が運営を行っていたが、公益法人の制度改革により、協会が継続して運営することが困難となったため、平成 24 年 4 月から、市が運営を行っている。

現在、市内外から年間約 18,000 人の利用者がある。

□ 天文館

山陽パークの施設として開設され、その投影機ミノルタ MS-10 は、国産で現在も稼動しているものの中では、最古と言われている。

建設から 50 年を経過し、建物の老朽化は激しく、主体構造部の鉄骨も腐食しているほか、雨漏りも数箇所ある。

なお、現在は、プラネタリウムの会（H4 設立。代表 能勢俊勝）に運営をお願いしており、小学生高学年とその保護者を対象とした「星の教室」という年 9 回の講座を実施、プラネタリウムでの星の投影の他に、望遠鏡による星の観察、科学工作等を行っている。

平成 29 年度は、登録者が 100 名を超えた。

①運動広場

1 施設の内容

- ・敷地面積 16,000 平方メートル
- ・使用用途 野球場 2 面、ソフトボール、サッカー等
(夜間照明有り)

2 施設の評価

3 施設の公共性

市民福祉の増進を目的として、対象者を特定せず、すべての市民が利用できる施設として公益性がある。

4 施設の有効性

- ・利用度 一定の利用者があり、今後の整備状況により増加が見込まれる。(別紙参照)
- ・互換性 近隣に同種の施設が存在しない。

5 施設の再編の検討

- ・複合化・共有化 他に候補となる施設がなく、困難である。
- ・集約化・統廃合 近隣に機能が類似する施設がないため、困難である。
- ・民間活力活用 隣接する集客力のある施設等との連携、指定管理者制度の導入を検討。
- ・近隣市との連携 隣接市の大規模運動施設との連携。

6 基本的な方針の考え方

一定の利用者があることから、暗渠・フェンス等の改修工事を行い、継続的に使用する。

7 課題

- ・修繕工事 (暗渠、フェンス)

②体育館

1 施設の内容

- ・ 建築年月日 昭和 51 年 6 月
- ・ 構造 S 造(鉄筋造) ※耐震化未実施
- ・ 延床面積 1,047 平方メートル
- ・ 敷地面積 1,239 平方メートル
- ・ 使用用途 ミニバスケットボール面、バスケットボール（一般） 1 面、バレーボール面、メインバレーボール 1 面、バドミントン 3 面、柔道・空手道

2 施設の評価

- ・ 屋上・屋根 広範囲に劣化
- ・ 外壁 早急に対応する必要がある
- ・ 内部仕上げ 経過年数 40 年以上
- ・ 電気設備 経過年数 40 年以上
- ・ 機械設備 経過年数 40 年以上

3 施設の公益性

市民福祉の増進を目的とし、対象者を特定せず、すべての市民が利用できるとして、公益性がある。

4 施設の有効性

- ・ 利用度 一定の利用者があり、今後の整備状況により増加が見込まれる。(別紙参照)
- ・ 互換性 近隣に同種の施設が存在しない。

5 施設の再編の検討

- ・ 複合化・共有化 他に候補となる施設がなく、困難。
- ・ 集約化・統廃合 埴生小学校体育館との統廃合の検討。
- ・ 民間活力活用 指定管理者制度の導入を検討。
- ・ 近隣市との連携 近隣に機能が類似する施設がないため、困難。

6 基本的な方針の考え方

一定の利用者があることから、存置若しくは統廃合により機能を継続する。

7 課題

○存置の場合

- ・ 耐震化工事
- ・ 外壁等の修繕

○埴生小学校体育館に統廃合した場合

- ・ 青年の家体育館よりアリーナが、狭いため、一部使用用途が縮小される。
- ・ 柔道、空手道の使用場所がなくなる。

③テニスコート

1 施設の内容

- ・使用用途 テニスコート 3 面

2 施設の評価

3 施設の公益性

市民福祉の増進を目的とし、対象者を特定せず、すべての市民が利用できる施設として、公益性がある。

4 施設の有効性

- ・利用度 テニスコート未整備により現利用者は少ないが、全国のテニス人口（別紙参照：平成 28 年テニス環境等実態調査）は、やや右肩上がり傾向であり、今後の整備状況により増加が見込まれる。
- ・互換性 近隣に同種の施設が存在しない。

5 施設の再編の検討

- ・複合化・共有化 他に候補となる施設がなく、困難。
- ・集約化・統廃合 近隣に機能が類似する施設がないため、困難。
- ・民間活力活用 指定管理者制度の導入を検討。
- ・近隣市との連携 近隣に機能が類似する施設がないため、困難。

6 基本的な方針の考え方

将来的に利用者増が見込め、また近隣に同種の施設がないことから機能を継続する。

7 課題

- ・修繕工事（暗渠等）